

直方ミニバスケットボールクラブだより

子どもは、結果よりもプロセスで力をつける



7月23日（木）いつもより時間をかけたミーティングを行いました。内容は、これまでの約1か月間の活動のふりかえりと、これからの活動についてです。そして、クラブのリード役をどうするかということに関してです。

ふだんは、なかなかまとまった話し合いの時間を持つことが難しいので、大事なミーティングは、時間をしっかりとれる土日の時間を活用しています。7月23日（木）の話し合いは、年間を通じて最も重要な話し合いの一場面でした。例年は、4月段階でもつことが多いのですが、今年度はコロナ問題の関係で、このタイミングになりました。時期は多少遅れましたが、しっかり話し合い、それぞれの意志を確認・尊重して結論を出すことができました。

当初は、すべての6年生が「自分がキャプテンをしたい」との意向があり、そこから話し合いのスタートでした。その意向が表明されて約2週間、全員がキャプテンをするとの意向にそってどんなリーダーシップをとるのか状況を見ました。

一人ひとりの意志はうれしく思いましたが、実際には、ほとんどリーダーシップをとることはなく、期待に反した状況でした。予測はできましたが、経験のない子どもたちが具体的な動きをイメージすることはできず、気持ちだけが先行した状態だったのだと思います。それでもここは、これからの一年間の活動の質を決める大事な場面です。「『みんなです＝だれもしない』ということか」と、6年生に返しました。強い口調ではありませんが、内容はきびしいものだと思います。みんなですとなると、何か指示を出すにも、自分一人の判断で出すことができず、常に話し合うという時間が介在します。結局、時間がかかり、指示は後手後手になったり、結局瞬時に指示を出したりすることができないまま、まわりは思い思いに次に進んでいるという状況になってしまいます。

経験ある私（おとな）からすると、ある程度予測のつくことで、見てたら、とてもまどろっこしくて、いらいらするものですが、ここで少し「待つ」ことが大事です。子どもは結果に学ぶことよりも、結果を生み出す過程に多くのことを学びます。効率だけを求めて途中を抜いてしまうと、自ら何かを成し遂げる力は育れません。指示に従って言われた通りに活動して優れた結果が出たとしても、その後はどうなるでしょう。子どもの中に力の蓄えが残ってなければ、これからさらに不透明になっていくであろう社会を生き抜いていくことは難しくなります。“自分（たち）で考え判断し行動する力”が必要です。しかけては「待ち」、待ってはまた「しかける」。その繰り返しです。子どもの成長を促すには根気がいります。

この1か月間、適宜「課題」を提起し、子どもたち自身が考え、答えを出していくプロセスを大事に活動してきました。本当は、「課題」も子どもたち自身の気づきから確認できるようになると、かなり力をもった子どもたちということになるのですが、まだそこまでは難しいようです。こちらから課題を提起し、考える時間をあたえ、結論を出していきます。

今回、一つの課題提起に対して結論を出す日が7月23日でした。課題は「6年生のリーダーシップ体制をどうするか」ということでした。子どもたちの話し合いのなかで確認がされました。話し合いの経過も聞きましたが、よく考えてると思いました。そして何より大切なことは、6年生それぞれが納得をした結論を出したことと、結果を導き出す過程に下級生の意見も大きく反映させていることです。下級生に、最終的に導き出されたこの体制には、「必ず協力します」という確約をとっています。ここが、のちのち響いてきます。

このような話し合いのプロセスを経て、今年度のリーダーシップ体制が確認されました。これからキャプテンのリードを中心に活動が進められていきます。大変期待していますが、決まったからといって、すぐに十分なリーダーシップが発揮されることはありません。今から一つ一つ課題をつかみ、提起し、解決に向けた動きを求め、きたえていかなければ育ちません。ここもプロセスです。このプロセスを通じて、クラブ、チーム、そして個々が、どんな変化・成長を遂げるか楽しみに見守っていきたいと思います。

毎回、短時間ですが、ゲーム（試合形式）をしています。23日には、学年ごとに面談もしました。そのなかで4年生、5年生から要望がありました（いいことですね）。その一つは、「ゲームのとき6年生と対戦したい」ということでした。通常、同程度どうしで組み合わせをつくってゲームをしています。4年生、5年生にとっては、少し強い相手と対戦したいという気持ちが強くなっていたようでした。いい兆候ですね。

さっそく、昨日それを試してみましたが、なるほどがんばり具合がちがいました。6年生と対戦するだけで、通常の2倍くらいのスピードとパワーを発揮してプレーしていました。へえーここまでできるんだと思いました。

23日は、6年生はリーダーシップ体制を話し合うことに時間を費やしましたので、個別に活動に対する意見を聞くことはできませんでした。が、日常、6年生には、対戦相手チームに、コーチに入ってもらったり、ときどき中学生がきて相手をしてくれたりしています。やはり当たりが強いことがわかっているので、最初から身構えが違いますね。ガツンとあたってもよろけないように強く力をこめてプレーしていることがよくわかります。

子どもたちは、日々、主体的かつまじめに練習を重ね、自力がついてきていることを実感し始めると、自分を試してみたくくなります。それも、今の自分より、ちょっと強いであろう相手と対戦してみたいと思うようになります。こうして少しずつレベルアップしていきます。

